IC通信

第5号　　発行日2005年12月1日木曜日

株式会社　アイ･シー･キューブ
http://www.ic3.co.jp/

いよいよ年の瀬、今年は何かと大忙しだったキューブ君です！
年の瀬といえば年賀状。プライベートはともかく、取引関係への
年賀状作成は大切なお仕事。でも、

年賀状、出しただけなら、ただのクジ

なんてことにならないよう、しっかりと心に残るような
年賀状を目指しましょうね（*お前もな！*）。
ということで今回は年賀状について。

年賀状の歴史

平安時代、やんごとなき人々が新春に歌を詠んでやりとりしたのが原型とされています。しかし、一般に広まったのは江戸時代に飛脚制度が出来てから。大名が江戸の将軍に年始の挨拶状を届けた慣わしを、下級武士や商人などが真似して、遠くの親戚や知人に年始の書簡を書き送るようになったのが、実際の始まりのようです。

本格的に広まるのは、明治時代。官製はがきが発行されたことにより急速に全国で定着し、その後、現在のように年賀郵便が発行され、昭和になってからは「お年玉つき年賀はがき」が発売されて、ますます盛んになりました。

うーん、誰かさんは民営化されても安泰かな？（年始はがんばってください！）

年賀状、誰に出す？

筆不精だから、面倒だからとか言って、年賀状に返信しないでいると、2～3年で送ってくれなくなってしまいます。若い頃はかまわなくても、後で考えると、何だか寂しーくなったりしますよね。やっぱり、送ってくださった方には必ず返信するのが基本なのでしょう。

それから、当然お世話になった方々。上司、先輩、仲人さんに恩師。それに遠く離れた親兄弟、親戚にも送りたいですね。もちろんお友達にも。

では、目の前にいる同僚はどうでしょう？ちょっと他人行儀ですか? でも、お正月に年賀状が届けば、やっぱりお互いにうれしいはずです。

こう考えると、結構沢山作らなくちゃなりませんね。（同僚の新婚君大変そう…）

どうやって書く？

子供の頃は、芋版を作ったり、彫刻したり、プリントごっこで印刷してみたり、いろいろ楽しい作業だった覚えがあります。住所書きは当然手書き。うちの父は全文手書きで墨、硯と格闘していましたっけ。

今は昔ですね。父は今年もリストと趣味で撮った写真（自信作らしい･･･）、それから100枚の年賀はがきを私に渡して一丁上がりみたいです（苦笑）。

現在はＰＣで一枚作ってしまえば、後はプリンターが一言も文句を言わずにきれい過ぎる位きれいに刷り上げてくれます。住所も一度登録してしまえば、追加するか削除するだけです。らくちんちん･･･でも、それでいいのかなあ、と思う今日この頃です。

やはり、
全て手書は無理としても、一言くらい自分で言葉を付け加えた方がいいですよね！

ＩＴの便利な機能はそのまま利用し、ひと工夫加えるのが本当のＩＴ活用法

「***人の心がこもっていない***」「***温かみがない***」ITの新技術を紹介するとよく言われる言葉です。反対に「***これは便利だ！***」「***仕事が楽になった！***」と言っていただけることもあります。何事にも向き不向きはあります。向いていること、向いていないことを判断してうまく利用していくのが上手なモノの活用法です。ITも単なる道具でしかありません。どう活用するかは、それぞれのユーザーの使い方次第。そして、使いようによっては、**ITで心のこもった温かみを与えることも可能**です。

心のこもった年賀状をＰＣで！
→　***年末恒例年賀状作成講座受付中！***

一万人に声の年賀状を送りませんか？
→　***名物社長が顧客に年賀挨拶！？***

年末年始休業のお知らせ

年末営業日12月28日まで
年始営業開始日1月5日より
詳しくは担当までお問い合わせください

株式会社アイ･シー･キューブ
〒310-0021
水戸市南町3-3-43小林ビル5F
TEL　029-228-0116
FAX　029-233-0882

担当：

今年も大変お世話になりました。
来年もよろしくお願いいたします。